

ダボス会議

Q:ダボス会議とは何ですか

A:毎年1月下旬にスイス東部の山あいのリゾート地ダボスで開催される国際会議のことです。ダボス会議はもともと、欧州のビジネスリーダーがグローバルな経営課題について意見交換する場として1971年に始まりました。その後、主催者のクラウス・シュワブ博士が非営利組織の「世界経済フォーラム」を設立し、アフリカや南米など世界各地で国際会議を開催するようになりました。ダボス会議は同フォーラムの年次総会にあたります。

Q:他の国際会議とはどう違うのですか

A:ダボス会議の大きな特徴は「参加者の多様性」にあり、実業家を中心としながらも、政治家、市民団体、学識経験者、文化人など様々な分野のリーダーが世界中から招待されます。その背景には、あらゆる分野から英知を結集しないと地球規模の課題に対する真に有効な解決策は見出せないというシュワブ博士の哲学があります。

今年1月のダボス会議には、約90カ国から2,500人以上が参加しました。また、初の試みとして、インターネット上の動画共有サイトを通じて一般の人々が参加者と質疑応答できる機会が設けられました。

ダボス会議には世界各国の要人が一堂に会するため、その機会を利用して会場の外で様々な会合が行われるのも特筆すべき特徴です。例えば、90年には当時の東西ドイツの首脳が個別に会い、ドイツ再統一問題について非公式に会談しました(図表)。

さらに近年では、サミット開催国の首脳が、サミットの議題をダボス会議で先駆けてアピールするなど、ダボス会議はその年の国際的な議論の流れを作る場としても注目を集めています。

Q:ダボス会議では具体的に何が話し合われているのですか

A:ダボス会議では毎年、全体を貫く統一テーマが定められます。今年1月の会議では、「横断的な協調による革新が生み出す力」をテーマに、不安定な世界経済や気候変動などの諸問題について解決策が模索されました。

特別講演では、サミット開催国である日本の福田首相(当時)が、国際社会による気候変動問題への迅速な対応の必要性を訴え、具体的な取り組みとして、温室効果ガスの排出削減に国別の総量目標を設定することなどを盛り込んだ「クールアース推進構想」を提唱しました。このスピーチが、7月の北海道洞爺湖サミットでの議論の下地を作ったのです。

Q:2009年のダボス会議の注目点は何ですか

A:2009年のダボス会議は1月28日から2月1日まで開催される予定で、「危機後の世界を形成する」が統一テーマとなります。現下の金融危機によって国際社会の将来展望が大きく変わりつつあるなか、すべての利害関係者が協調して、今後の変化に速やかに対応する方法を模索しようというコンセプトです。この統一テーマに沿った問題意識として、危機後の世界において重要となる価値は何か、今後の経済成長を牽引する技術革新の新機軸は何か、などが示されています。

金融危機を背景に各国の関心が当面の経済問題に集まりがちなか、ダボス会議では長期的・大局的な視点に基づいた議論が行われることも期待されます。◀

みずほ総合研究所 政策調査部
 研究員 塚越由郁
 yuka.tsukagoshi@mizuho-ri.co.jp

●ダボス会議(世界経済フォーラム年次総会)の主な歴史

年	内容
1971	ダボス会議の創始者クラウス・シュワブ氏が、欧州のビジネスリーダーを集めて第1回会議を主催
1974	政治家を初めて招待
1976	ダボス以外での地域別会議を初めて開催
1979	世界経済フォーラムの前身団体が、「国際競争力レポート」を初めて作成
1989	南北朝鮮が、初の大首脳級会合をダボスで実施
1990	東西ドイツの首脳が、ドイツ再統一についてダボスで討議
1994	イスラエルとパレスチナ解放機構の首脳が、ダボスでパレスチナ暫定自治協定に大筋合意
2001	森首相が、日本の現職首相として初めて出席
2005	英国のブレア首相が、気候変動とアフリカ問題をサミットの主要議題に据える旨を表明
2007	初の夏季年次会合を中国で開催
2008	福田首相が、日本の現職首相として7年ぶりに出席

(資料)世界経済フォーラム・ウェブサイト等